

大会実施要項

1、名称

第19回大分県整骨旗争奪少年柔道大会

第32回文部科学大臣杯争奪日整全国少年柔道大会大分県予選会

2、日時

令和5年7月30日(日)

8:00・(役員、関係者入場)

8:30・開場・受付(正面玄関、その他を開場)

8:50・審判・監督会議

9:10・開会式

9:40・試合開始(形の演武、個人戦、団体戦)

団体戦終了後、閉会式(団体戦、個人戦表彰・委嘱状授与)

3、会場

『ダイハツ九州アリーナ』中津市総合体育館 中津市大字大貞377-1 TEL0979-53-6700

4、主旨

少年柔道大会を毎年開催し、県少年柔道の発展と少年の健全育成に尽力すること。

5、主催

公益社団法人 大分県柔道整復師会

6、申込方法

電子メールにてなるべく申し込むこと。

本会ホームページの書式をダウンロードして電子メールで申し込むか、本会に電話またはメールアドレス ju-sei@seikotsu-oita.jp にてその旨を伝えて頂ければ、所定の書式を郵送いたしますので必要事項を記入後、再度郵送にてお申し込み下さい。(書式をプリントアウトして郵送も可)

※申し込み先 〒870-0921 大分市萩原4-8-58

公益社団法人 大分県柔道整復師会 TEL097-503-3334

申込め切は6月16日(金)必着【厳守】とする。

7、参加資格

本年度の全柔連登録を済ませている者とする。

8、参加費

保険料として選手一名につき500円とする。

9、競技について

有観客で行うが、不測の事態の場合、主催者が有人無人等の判断をするものとする。

《形の披露》

公益社団法人大分県柔道整復師会選出選手による形の演武

《個人戦》

a. 4・5・6年生の体重無差別のトーナメント方式とする。

b. 各学年それぞれ一道場2名ずつのエントリーとする。

c. 4年生の部優勝者・5年生の部優勝者、準優勝者・6年生の部優勝者、準優勝者(計5名)を東京で開催される日整全国少年柔道大会出場選手として派遣する。同学年においては体重の軽い順として代表に委嘱する。

d. エントリーする選手の性別・国籍は問わない。

e. 全国大会出場学年に該当しない選手は不可とする。

f. 締め切り後の選手の変更は原則認めない。

《団体戦》

a. 1・2・3・4・5・6年生の6人制(各道場2チームまで可、補欠は3名まで)にてリーグまたはトーナメント方式とする。出場チーム数によって変更することがある。

b. エントリーする選手の性別・国籍は問わない。

c. 当該学年選手が不足の場合一学年下の選手で補うことができる。

d. 同学年が並ぶ場合体重が重い選手が上位学年の配置とする。

e. 締め切り後の選手の変更は原則認めない。

f. スコアが同点の場合は内容差、内容差がなければ任意選手による代表戦にて勝敗を決する。

10、審判

a. 試合は国際柔道連盟試合審判規定及び、国内における少年規定、大会申し合わせ事項により行い、試合時

間は全試合正規の2分間とする。(個人戦及び団体戦代表決定戦ではゴールデンスコア方式をとらない・僅差判定を用いる・ジュリーをおく) ※大会申し合わせ事項の詳細は、当日の審判監督会議にて決定する。
その他不測の事態が生じた場合は審判長及び関係者にて協議の上決定する。

- b. 勝敗の決定方法は「一本」・「技あり」・「僅差(指導差2)」とする。 ※逆背負い投げ、両袖を持って施す技は禁止とし、かけた選手は【反則負け】とする。
- c. すべての試合を三審制とする。

1 1、表彰

団体戦、個人戦、優勝・準優勝・3位の選手を表彰する。

個人戦で選出された4年生1名・5年生2名・6年生2名、また形競技代表者2名を日整全国少年柔道大会並びに形競技会県代表選手として委嘱する。

1 2、その他

- a. 参加チームより監督、コーチの入場は「公認指導者資格」並びに「審判員ライセンス」を有する者とする。また入場された指導者の先生方には審判のご協力をお願いいたします。
- b. 組み合わせは主催者に一任をお願いいたします。
- c. 本大会における傷害等については主催者側が応急処置を行う。それ以上においては主催者側でも保険に加入しておりますが、各自で加入したスポーツ傷害保険で対応をお願いいたします。
- d. 参加にあたっては、必ず保護者の承諾を得ておくこと。
- e. ゼッケン(チーム名・名入り)は必ず付けること。強い糸、ミシン等で縦・横・対角線上に強く縫い付けること。女子のTシャツは白色で無地、あるいは1ポイントまで認める。
- f. 選手および指導者は下記事項を遵守すること。
※全日本柔道連盟「試合場におけるコーチの振る舞いについて」を採用
※皮膚真菌症(トングランス感染症)については発症の有無を各所属の責任において必ず確認すること。感染が疑わしい、もしくは感染が判明した選手については迅速に医療機関において的確な治療を行なうこと。もし選手に皮膚真菌症の感染が発覚した場合は大会への出場ができない場合もある。
※脳震盪の対応について
 - ・大会前1ヶ月以内に脳震盪を受傷した者は脳神経外科の診察を受け出場の許可を得ること。
 - ・大会中、脳震盪を受傷した者は継続して当該大会に出場することは不可とする。(なお至急、専門医(脳神経外科)の精査を受けること)
 - ・練習再開に際しては脳神経外科の診断を受け許可を得ること。
 - ・当該選手の指導者は大会事務局および全柔連に対し書面により事故報告書を提出すること。
※新型コロナウイルス感染症対策について(当日審判監督会議にて協議)
※各道場責任者へお願い
監督・コーチの服装は審判服に準ずるもの(ワイシャツ、スラックス、エンブレム等)であること。(著しい染髪・装身具なども不可)たとえ事前登録していたとしても上記の服装以外の者、適切でない者は入場を禁止する。(試合場フロア外へ退去させる)
- g. 不測の事態等によっては本大会を中止することもある。

1 3、全国大会への派遣について

- a. 当予選会にて選出された4年生1名、5年生2名、6年生2名、また公益社団法人大分県柔道整復師会内審査で選出した形競技者2名、それぞれの監督2名の合計9名を大分県代表選手団として、令和5年1月19日(日)東京・講道館で行われる第32回文部科学大臣杯争奪日整全国少年柔道大会並びに第13回文部科学大臣杯争奪日整全国少年柔道形競技会に派遣する。
- b. 試合は団体トーナメント方式とし、学年順・軽量から順番に先鋒より配列し試合時間は2分間。国際柔道連盟試合審判規定(少年大会特別規定)により行う。
- c. 補欠は認めない。選手交代は開会式前までに監督が選手係に申し出ることにより認める。試合開始後の変更は負傷者が出た場合でも認めない。
- d. 選手の交通費、宿泊費は公益社団法人日本柔道整復師会と公益社団法人大分県柔道整復師会が補助、負担する。
- e. 選手は保護者の参加承認書を申し込み時に必ず提出のこと。なお保護者は選手の出場にあたり事前に医師の健康診断を受けさせて試合出場に支障がないことを確認しておくこと。
- f. 選手の傷害保険は主催者が負担する。なお試合当日は健康保険証を持参のこと。

- g. 負傷した選手は、ただちに大会救護係へ報告し大会顧問医師の診察を受け報告書を提出すること。なお当日大会で負傷し病院等に搬送された場合、初診時費用は主催者の公益社団法人日本柔道整復師会が負担する。この報告書の提出なき者はすべて自己負担とし大会終了後は受け付けない。
- h. 選手は所管の教育委員会、又は在学校長等の承認及び許可をとること。
- i. 選手が小学生であるため、大会期間中必ず保護者か、所属チームの監督またはコーチが責任を持って帯同すること。
- j. 不測の事態等により全国大会が中止となる場合もある。